平成１０年度

第３０回　越谷市民文化祭

平成１０年１１月２０日（金）～２３日（月）

越谷市郷土研究会展示部門出品紹介

於　越谷コミュニティセンター　大ホールホワイエ

◇周りの１０個の輪は、昭和２９年１１月３日に合併した十町村である二町八ケ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。
十町村とは、越ケ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・萩島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。
なお、市に昇格したのが昭和３３年１１月３日。

◇中央部周りのデザインは、カタカナの『コ』を４個集めたもの。
つまり、越谷の『越』（「コ４」）を意味する。

◇中心部のデザインは越谷の『谷』の文字を図案化したものである。

第30回 市民文化祭の
越谷市郷土研究会展示作品リスト

番号	題名	頁	出品者名	住所
一	斎藤先生の碑	1	池田　仁	相模町二丁目
二	旧恩間・袋山・大林・大房村の石仏	2～16	加藤　幸一	春日部市大枝
三	越谷市内の六地蔵	17	菅波　昌夫	南越谷一丁目
四	越谷で基督教を広めた吉田兼三郎翁	18	高橋　清	新川町一丁目
五	明治初期・蒲生村の高齢者表彰	19	高橋　正澄	蒲生西一丁目
六	元荒川の四季	20	平井　五六	神明町二丁目
七	野島地蔵尊の不思議な伝承	21	堀切　祥民	北越谷一丁目
八	中町・浅間神社の懸仏	22	水上　清	宮本町五丁目
九	越谷市内にある指定文化財の板碑	23・24	板碑調査グループ 代表 宮川 進	

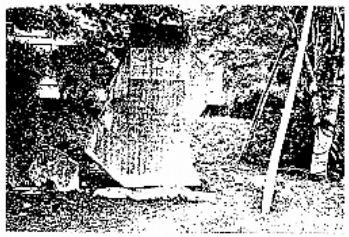
※なお、最後の頁には、昨年度の市民文化祭で「越谷の狛犬調査グループ」によって発表しました「越谷にある《狛犬》全リスト」を掲載しました。

※右の展示作品や入会に関する問い合わせ先は、越谷市郷土研究会の谷岡隆夫（当会会長・☎62－7527）までお願いします。

大相模大聖寺境内　（漢文体を和解）

一　斎藤先生の碑

池田　仁



［斎藤先生の碑］

［斎藤家墓所］

先生は名を徳行という。幼名を利輔。晩年には大田斉と号した。この西方村の人である。亡父は林之助と称す。亡母の生家は関根氏。文化十一甲戌（一八一四）年五月五日に誕生された。三男二女がある。先生は子供の頃から学問を好み、書や和歌に巧みで、また、化学の理に精しかった。

初め、西方村に所領を持っていた旗本萬年氏に仕え、役職に就く。先生は職務に勤勉で誠をつくし、治水の事に心を用い、大いに村人の信望を得る。萬年氏は之を賞して斎藤の姓を授けた。

明治維新の際、退職して江北に閑居し、詩文や書画をかいて、世の成り行きに身を任せる。書を以て課業とした。子弟就学者は百余名。

明治十五（一八八二）年十月二日死去。年齢六十九才であった。

子弟仲間は先生の死をいたみ悲しみ、相談して芳名を後世に遺さんことを願い、この碑を建てた、という。

明治十六年五月二日　之を建てる

蒋潭永戸思考撰並書

かねてちるものと　をもへど一葉かな　徳行

（裏面）　発起幹事　見田方　高崎宜治以下七十名を刻む

- 先生の住居地は大相模西方（現相模町五丁目）。
- 自宅で私塾を開設、その期間は不明。
- 明治の中ごろに、斎藤家が火災に逢い、当時の資料を焼失した。

ある。それは、人間の体の中に潜んでいる三尸と言われる三匹の尸虫が、庚申の日の夜に、人の睡眠中に口から抜け出して天に昇り、その人が日頃犯した罪を天の神に暴く。するとその報告をもとに判断して生命を奪ったり、若死にさせたりする。そのために、その日は三尸虫が身体から抜け出る機会を与えないように寝ないのである。このような庚申信仰はかつては全国津々浦々で見られたのである。

（5）勢至堂

図12、16は庚申塔である。図13は普門品を読誦した記念に造立された石塔である。中央には浮き彫りの観世音菩薩（観音様）が刻まれている。「普門品」は「法華経観世音菩薩普門品第二十五」の略称である。俗に「観音経」とも呼ばれている。図14は聖徳太子が十六歳の時に父である用明天皇の病気平癒を祈る姿の孝養像である。柄香炉を執る姿に表されている。図18は馬の頭を頭上に載せた観音様を図像で表した石仏である。一般に観音様はやさしい顔付きをしているのであるが、馬頭観音は例外で、怒った顔付きとなっている。図17は図像の代わりに文字で表している。

（6）恩間香取神社

図20は主尊を仏教系の青面金剛とせずに神道系の猿田彦とする庚申塔である。猿田彦は、天孫ニニギノミコトが高天原から高千穂に降臨する時、天界からの分かれ道アマノヤチマタ（数多くの道が分かれていた）にいて出迎え、天孫を道案内したという神。「彦」の字が「昆古」としているのが珍しい。

（7）恩間薬師堂

この地には多くの庚申塔が見られる。また、六人の地蔵（図27）や六種類の観音（図28）を描いた石幢も見られる。六観音とは、如意輪観音、准胝観音、千手観音、馬頭観音、十一面観音、聖観音（普通の観音様）をさす。

（8）恩間地蔵堂

地元では「地蔵坊」と呼んでいる。図30は、図15と同じ不動明王の石仏である。石仏表面には「阿遮羅」の文字が見られるが、これは「不動明王」のことである。不動明王は怒った顔付きをし、右手に剣、左手に羂索をもつ像容で、いかなることにも動揺しないという意味で不動と名付けられている。不動信仰がこの地でも盛んであったことがわかる。

Ⅱ　旧代衣山村

（1）袋山観音堂

図1は観音堂墓地の入り口にあるが、側面に「これより左、しんめいみち（神明道）」と刻まれた道しるべを兼ねた石塔である。その他、この墓地には庚申塔が数多く見られる。その中に、鬼は一匹が普通であるのに二匹も描かれた珍しい庚申塔（図8）がある。

（2）袋山久伊豆神社

図17の石灯籠供養塔の向かって右側面には「江戸築地」の地名が見られ、遠く離れた江戸の地より石灯籠が奉納されたことがわかる。

（3）袋山薬師堂

図18の六十六部回国塔は、当村の円心が、法華経（大乗妙典）をわが国の六十六か国すべてに納めようと徒歩で廻った記念に造立したものである。現代のように便利な交通機関がなかった当時としては全国を巡るのは大変な苦労であったであろう。

また図19の庚申塔は、両側面に刻まれた文字を見ると奉納者がすべて女性である。青面金剛が女性の髪の毛をつかまえてぶら下げている庚申塔がよく見られることからもわかるように女性は卑しいとされ、庚申待では女性を排除して男性のみの講中で行われるのである。しかし袋山村では何と女性のみの庚申待が行われていたことは特筆すべきことである。なお、女性をぶら下げている袋山村内の庚申塔として次の例があげられる。

図8、図24、図25、図26、図28、図29

（4）袋山釈迦堂

ここは末田の金剛院の末寺である「能仁寺」の跡地である。本尊が釈迦如来であった。この墓地には袋山村の名主を代々務めた細沼家の格式高い墓地があるほか、庚申塔が多くみられ整然と並べられている。図21の名号塔に「宏善」の名前と花押（サイン）が見られるが、宏善とは、江戸末期から明治にかけて活躍した大泊村の安国寺の宏善上人を指す。

図26、30、31、32の庚申塔はすべて男女協力して奉納している。男性優位の時代においては珍しい。

Ⅲ　旧大林村

（1）大林香取神社

図2は、恩間村の香取神社にある図15と同様、彦の代わりに「毘古」の文字を使った猿田彦庚申塔である。

（2）飯山家（大林三〇五）邸内

図8は、飯山家前を通る県道大野島・越谷線のT字路の飯山家側の角地にあった貴重な道しるべの石塔で、『野島地蔵尊道三十丁余のじま（野島）道』と刻まれていた。

現在はこの地になく、所在不明となっている。誠に残念である。この図は写真をもとにスケッチしたものである。

（3）大林寺

大林寺は戦前までは尼寺として知られた禅宗寺院である。

図10はこの寺の中興である璉山和尚が造立した石塔である。図11と12は、西国三十三か所、四国八十八か所、秩父三十四か所、坂東三十三か所の巡礼地のすべてを徒歩で巡り終わった記念に造立した記念の石塔である。巡礼の盛んな様子がうかがえる。

Ⅳ　旧大房村

（1）元荒川土手そばの路傍

図1は、道しるべを兼ねた庚申塔である。向かって左側面には「左、じおんじ・のじま道」と刻まれている。

（2）大房稲荷神社

この地にも庚申塔が多く見られる。その中で図3と19は、共に向かって右側面に「岐神」の文字が見られる猿田彦庚申塔である。岐神（くなどのかみ、ふなどのかみ）は、イザナギの神が黄泉国からの逃避の後、禊・祓の時に投げ捨てた杖から生まれた神で、道の分かれる所に立っていて、種々の災いを退ける神であるという。天孫を出迎えるために天界からの分かれ道で待っていた猿田彦と同一視されたのである。

図4は樗宮文字塔である。樗宮とは、鳥取市にある樗谿神社をさすと思われる。遠方の因幡国からの信仰がこの地に見られるとは驚きである。

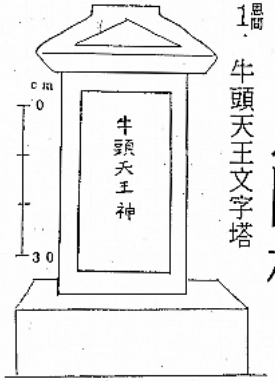
（3）浄光寺

浄光寺はかつては「越ケ谷古梅園」で有名な寺院であった。明治末期から大正、昭和にかけて寺院周辺で大変な賑わいをみせたのである。しかし一方でこの寺院の境内には見るべき石仏石塔がないのはなぜであろうか。

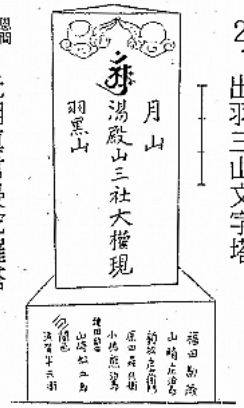
図10は元は大房の薬師堂にあった石塔である。埼玉鴨場そばの大房の薬師堂にあった石塔が、平成二年に薬師堂の廃止とともに浄光寺に移されたのである。大房薬師堂は徳川幕府より浄光寺に堂領として与えられた高五石の御朱印地で、かつては「鵜の森の薬師」と称され、大同二年（八〇七）創建と伝えられる由緒あるお堂であった。言い伝えによると、大林村と大房村とがこの薬師堂の所有を目指して相撲で争い、勝った大房村が手に入れたという。図11も旧日光街道沿いの、今はなき大房薬師堂へ通じる通路の入口の南側角地にあったものを浄光寺に移されたものである。

旧恩間（おんま）村

1図 牛頭天王文字塔

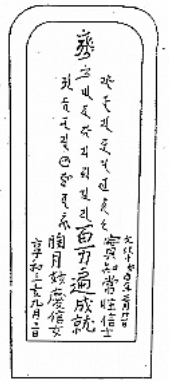


2図 出羽三山文字塔



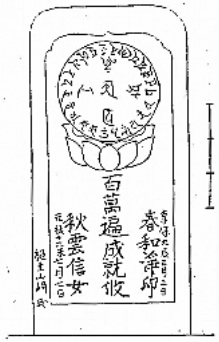
3図 光明真言曼陀羅塔

4図 光明真言塔



5図 光明真言曼陀羅塔

6図 光明真言曼陀羅塔

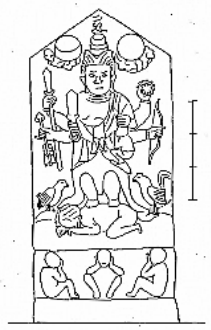


7図 光明真言曼陀羅塔

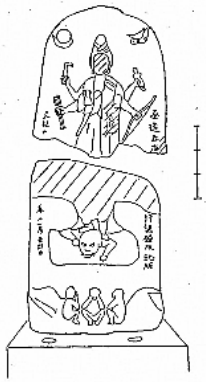
8図 光明真言曼陀羅塔

9図 文字庚申塔

10図 青面金剛像庚申塔



11図 青面金剛像庚申塔



12図 青面金剛像庚申塔

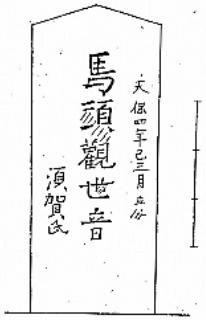
13図 普門品供養塔

14図 聖徳太子供養塔

15図 不動明王像

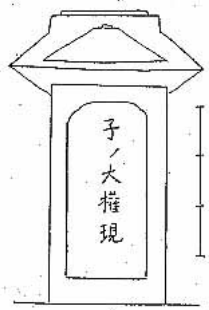
16図 青面金剛像庚申塔

17図 馬頭観音文字塔



18図 馬頭観音菩薩像

19図・子の権現文字塔



20図・猿田彦庚申塔

21図・文字庚申塔

22図・文字庚申塔

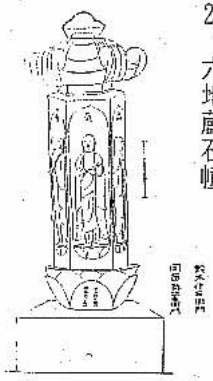
23図・青面金剛像庚申塔

24図・文字庚申塔

25図・文字庚申塔

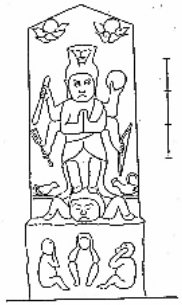
26図・文字庚申塔

27図・六地蔵石幢



28図・六観音石幢

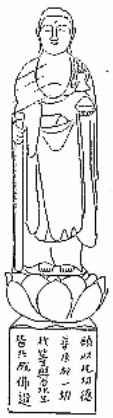
29図・青面金剛像庚申塔



30図・不動明王像

31図・文字庚申塔

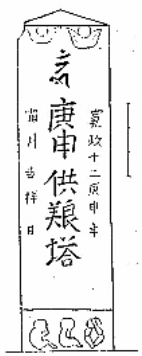
32図・丸彫り地蔵菩薩立像



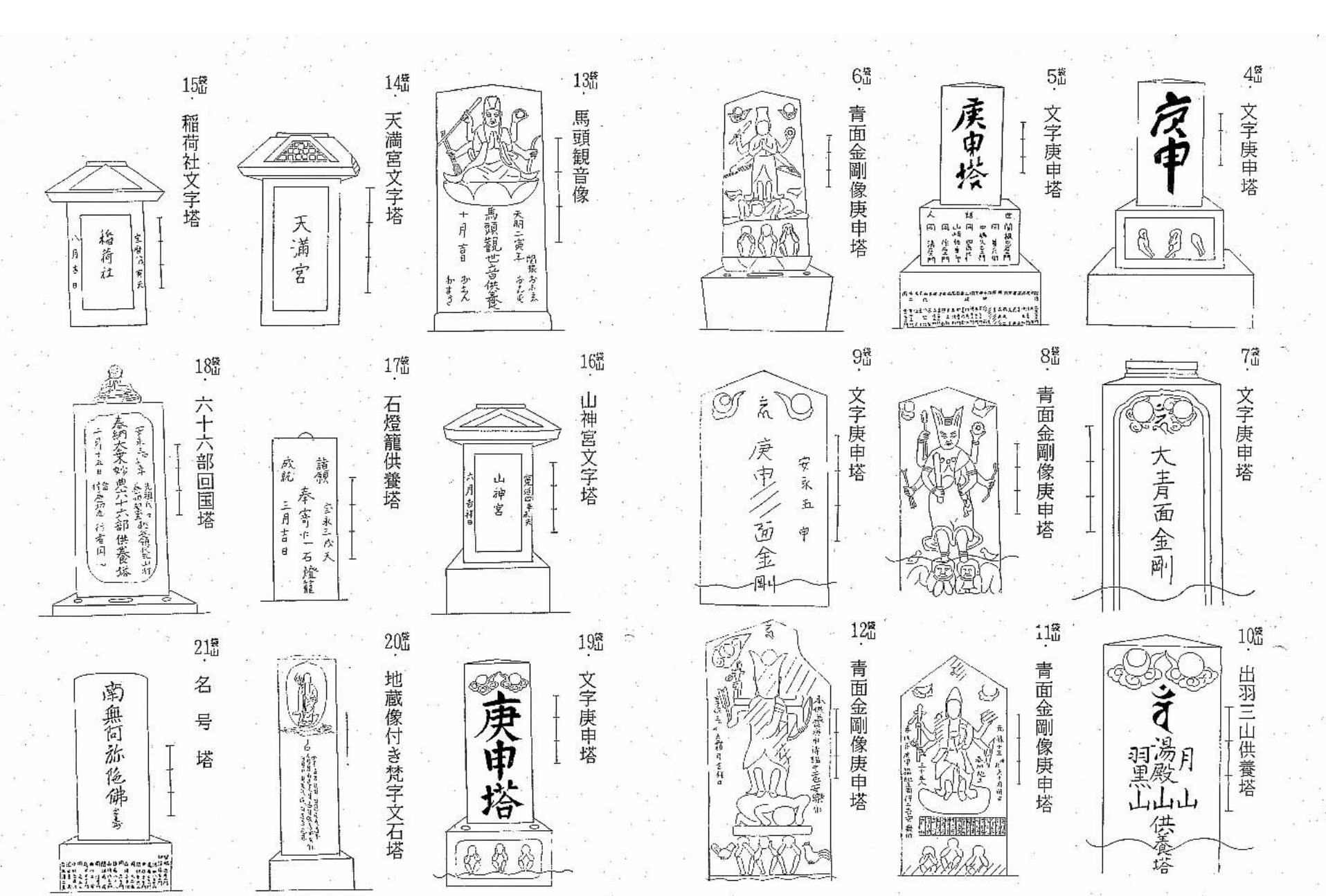
旧袋山村（ふくろやま）

1袋山・道標付き石橋供養塔

2袋山・文字庚申塔

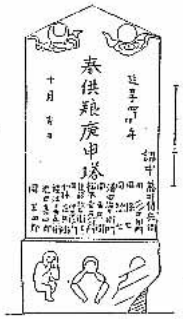


3袋山・文字庚申塔


4袋出・文字庚申塔
庚申
5袋出・文字庚申塔
庚申塔
6袋出・青面金剛像庚申塔
7袋出・文字庚申塔
大青面金剛
8袋出・青面金剛像庚申塔
9袋出・文字庚申塔
安永五 申
庚申
青面金剛
10袋出・出羽三山供養塔
月山
湯殿山
羽黒山
供養塔
11袋出・青面金剛像庚申塔
12袋出・青面金剛像庚申塔
13袋出・馬頭観音像
馬頭観世音供養
十月 吉日
14袋出・天満宮文字塔
天満宮
15袋出・稲荷社文字塔
稲荷社
八月吉日
16袋出・山神宮文字塔
山神宮
六月吉日
17袋出・石燈籠供養塔
奉寄
石燈籠
三月吉日
18袋出・六十六部回国塔
奉納
六十六部供養塔
19袋出・文字庚申塔
庚申塔
20袋出・地蔵像付き梵字文石塔
21袋出・名号塔
南無阿弥陀佛

22 笠山・不動明王像

23 笠山・文字庚申塔



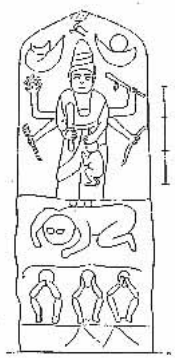
24 笠山・青面金剛像庚申塔

25 笠山・青面金剛像庚申塔

26 笠山・青面金剛像庚申塔

27 笠山・文字庚申塔

28 笠山・青面金剛像庚申塔



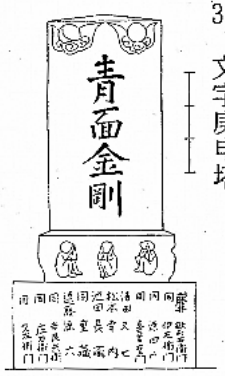
29 笠山・青面金剛像庚申塔

30 笠山・文字庚申塔

31 笠山・文字庚申塔

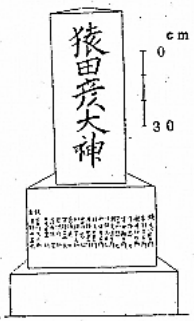
32 笠山・文字庚申塔

33 笠山・文字庚申塔



旧大林村（おおばやし）

1 大林・猿田彦文字庚申塔

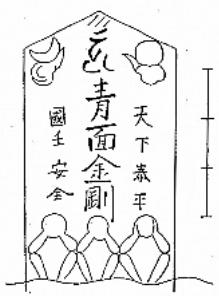


2 大林・猿田彦文字庚申塔

3 大林・天満宮文字塔

4 大林・文字庚申塔

5 大林・文字庚申塔

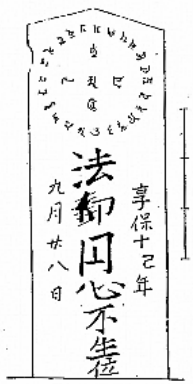


6 大林・青面金剛像庚申塔

旧大房村

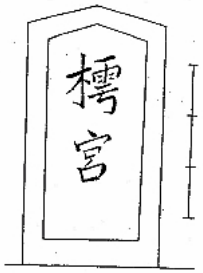
1大房・道標付き文字庚申塔

2大房・光明真言曼陀羅付き墓塔



3大房・猿田彦文字庚申塔

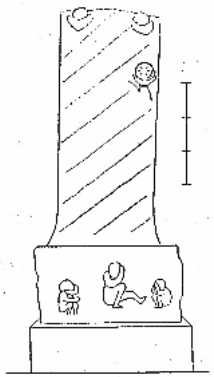
4大房・樗宮（おうちのみや）文字塔



5大房・猿田彦文字庚申塔

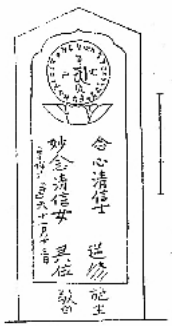
6大房・青面金剛像庚申塔

7大房・青面金剛像庚申塔



8大房・猿田彦庚申塔

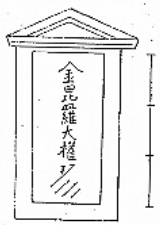
9大房・光明真言曼陀羅付き墓塔



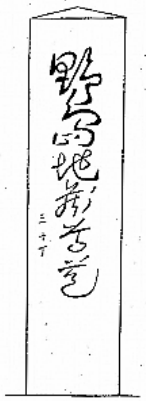
10大房・大房薬師堂の宝篋印塔

11大房・猿田彦文字庚申塔

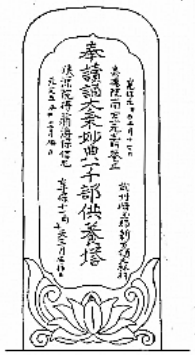
7林・金毘羅権現文字塔



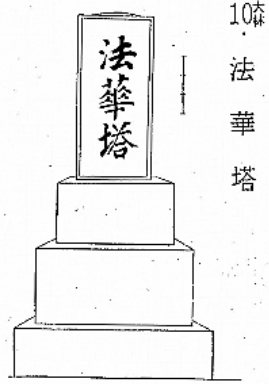
8林・道標石塔



9林・大乗妙典供養塔

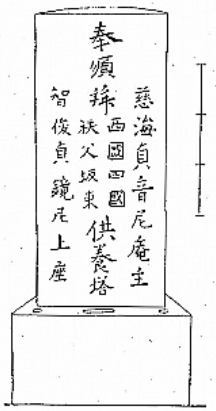


10林・法華塔



11林・百八十八箇所巡拝塔

12林・百八十八箇所巡拝塔



恩間・袋山・大林・大房の石仏案内図

恩間新田
恩新田公民館（能満寺跡）
独協高校
新方川（せんげん堀）
せんげん台駅
恩間
山崎家（二二番地）個人墓地
山崎家（二二番地）
恩間新田稲荷神社
勢至堂
大袋北小
袋山
恩間香取神社
恩間薬師堂
袋山久伊豆神社
袋山観音堂
袋山薬師堂
大袋駅
恩間地蔵堂
袋山釈迦堂
大袋小
大袋東小
旧日光街道
元荒川
大林
大林香取神社
飯山家
大林寺
大房
国道4号線バイパス
元荒川土手路傍
大房稲荷神社
大房浄光寺
北越谷駅

三　越谷市内の六地蔵

菅波　昌夫

・地蔵信仰

釈迦が入滅したあと、五六億七千万年後、弥勒菩薩がこの世に出るまで無仏の世界とされる。その間を救う仏が地蔵菩薩である。

人は悪が常に生ずる。その時に地蔵の名を呼び、一心に帰依すれば苦から逃れられるという。

地蔵菩薩は地獄におちた人を救い、解脱へと導く菩薩として信仰されてきた。今はなき三途の河で迷う幼児を導く菩薩で、母親から無限の信頼がよせられた。だれでも親しみを感じ、この世と死者を結び付ける仏として、地蔵信仰は根強いものがある。

・六地蔵

地蔵はその功徳をあらわすため、地獄、餓鬼、畜生、修羅人、天の六道に姿を現し、六道に苦しむ衆生を救おうと願を発した。

村落や墓地の出入り口に建立されることがおおい。

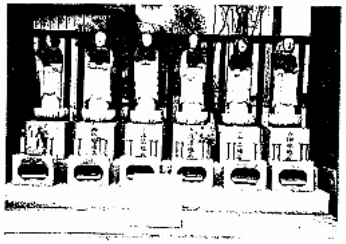
祖先供養、子孫安穏、厄よけ、祈願成就、道しるべ、戦没者の冥福を祈るためである。

一、地獄道　大定智悲地蔵
二、餓鬼道　大徳清浄地蔵
三、畜生道　大光明地蔵
四、修羅道　清浄無垢地蔵
五、人　道　大清浄地蔵
六、天　道　大堅固地蔵

越谷市内の六地蔵

寺　院	宗　派	所在地
光明院	真言宗	大　沢
清浄院	浄土宗	大　松
玉泉院	真言宗	南荻島
報土院	浄土宗	登　戸
無量院	浄土宗	船　渡
成就院	真言宗	川　柳
智泉院	真言宗	川　柳
照連院	真言宗	瓦曽根
観照院	真言宗	七　左
清蔵院	真言宗	蒲　生
観音寺	真言宗	大成町
浄音寺	浄土宗	大成町
東福寺	真言宗	東越谷
金剛寺	真言宗	東　町
浄光寺	真言宗	北越谷

［大沢・光明院］



［大成町・観音寺］

四　変革期に生きた人
越谷でキリスト教をひろめた吉田兼三郎翁

高橋　清

越巻村（現新川町一丁目）綾瀬川畔に居住していた農民吉田兼三郎（嘉永元年生れ）は、路上説法するキリスト教にいたく感動し、明治十七年六月、アメリカ人宣教師モール博士を自宅に招き、村人を集めてその話を聞いた。そして、吉田宅にて四人が洗礼をうけ入信した。時に吉田三十七才。越谷キリスト教のはじまりであった。

明治維新後になっても、キリスト教は禁教であった。キリスト教解禁、禁教撤廃は明治六年、太政官布告で一般に知らされた。それより十年後に吉田は入信活動した。

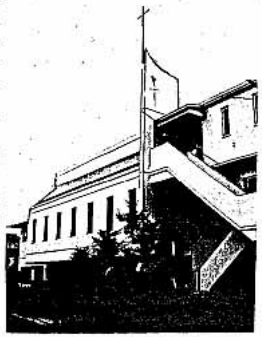
そのころの時代背景を考えると、明治十四年に大蔵卿に就任した松方正義の松方デフレ政策で、多くの中小農民が没落した。一方、借金のかたに手放された土地を集中する寄生地主が成立した。越巻村丸の内神社おびしゃ年番帳には不景気のため、四ヶ年、祭礼を休むと記載されている。

またいままでの村々を合併して出羽村が成立した時代でもあった。

当時は人心荒廃の世相で、吉田はなんとか気風を正し、希望のもてるくらしにしたいと、私財を投げうってキリスト教発展に尽くしたようである（越谷教会設立に参画、長男菊太郎を米国に留学させ、牧師とさせた）。

しかし、晩年の吉田翁の活躍はなく、村でも評価されていない。昭和十五年、吉田翁は生家で逝去された。九十三才。その後、吉田家は転売され、いまはその頃の面影はない。子孫は転退して吉田家直系は不明である。

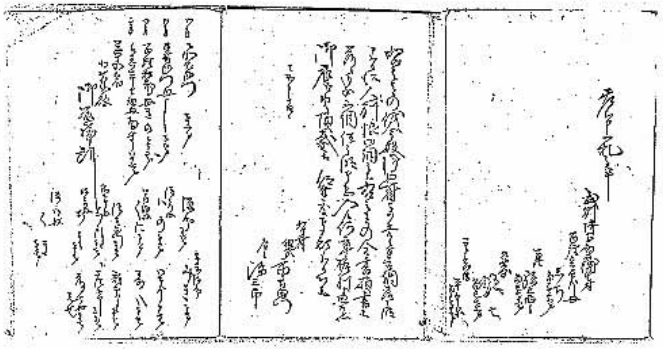
［宣教師ムーア博士］



［現在の越谷教会］

五　明治初期・蒲生村の高齢者表彰

高橋　正澄



［差上申一札之事］

差上申一札之事

武州埼玉郡蒲生村
百姓　定右衛門母　志ち　当巳七十五才
百姓　孫三郎　当巳七十一才
年寄　佐七　当巳七十一才
重兵衛地借　平兵衛　当巳七十一才

右のもの儀、今般御廻村被為在候ニ付、取調落之段申上候処、人別帳御調之上右之もの全書損書上落ニ相成、不調法之段奉恐入候、何卒格別之思召ヲ以御寛美頂戴被仰付度奉願上候、以上

巳五月十四日

右村
組頭　市左衛門
名主　弥三郎

弐分　嘉左衛門　七十一才　源助七十八才　年寄清助
弐分　杢左衛門母よし七十八才　浅右衛門母　いの七十二才　みき　七十四才　八右衛門七十四才
弐分　百姓松蔵母きの七十二才　八郎治母　くに七十八才　甚八七十六才
三分　水呑平七祖母やす八十六才　伝左衛門七十九才　新十郎七十五才

松二郎母

草加宿　なつ七十七才　庄五郎七十五才
小菅県　政右衛門母ちよ　七十二才　藤七母志せ七十一才
御取締所　源八母　くま七十二才

下

六　元荒川の四季

平井　五六

［春の元荒川］

［秋の元荒川］

越谷に住んで二十年。越谷が第二のふるさとになった。

大正八年、東京・向島で私はうまれた。

ことしで八十歳になる。

昭和十五年から軍籍にあり、お国のためと疑いをもたなかった。

貴重な青年期に華南や南方を転戦し、おおくの戦友をうしなった。

昭和二十一年、焦土と化した祖国へ復員した。

以来、勤め人として都内の社宅で暮らした。

昭和五十三年、越谷にご縁があったのか、上司のすすめや友人の仲介もあって、定年を機に越谷に居をかまえた。

元荒川ぞいの神明町を終の栖とした。新居がおちついた翌春、むこう岸のみごとな桜並木に心が華やいだ。

この桜は、地元の有志が昭和三十一年に植えたと聞く。

もとの同僚を招いて花自慢をしたものだった。

激動の時代をすごした私の半生を、四季のうつろいが慰めてくれる。

この平和がつづくことをねがいながら、苦楽をともにした妻と、春夏秋冬をながめて、安穏な日々をおくりたい。

来年、金婚式をわたしたちは迎える。

七　野島地蔵尊の不思議な伝承

堀切　祥民

［浄山寺山門］

［浄山寺本堂］

市内の名刹・浄山寺は、平安初期・清和天皇の御代、貞観二年（八六〇）慈覚大師円仁の創建と伝えられ、本尊延命地蔵は大師の作という。地蔵尊には不思議な伝承がある。

（一）片目地蔵

承応二年（一六五三）ころ、地蔵尊は墨衣に袈裟をまとい、病気や難産にくるしむ里人を救うため、しばしば寺を抜け出した。あるとき、地蔵尊の善導中、ふとしたことから茶の枝に左目をつき、いそぎ寺にもどり門前の池で洗眼すると、不思議に池の魚、蛙などたちまち片目と化した。以後、地蔵尊は片目地蔵とよばれるようになった。

時の住職は地蔵尊の抜け出しにこまり、背中に太い釘を打ちこみ、鎖で柱につなぎ、抜けでないようにした。不思議にも住職は熱病にかかり頓死した。

（二）地蔵尊の開帳

享保十一年（一七二六）、地蔵尊の開帳に際し、釘や鎖を見るに忍びがたく、時の住職が取り除くと、不思議なことに参詣者で寺はにぎわい、ますます繁栄したという。

その後、江戸・湯島天神にて地蔵尊の出開帳をおこなうと、東都にひろく知られるようになった。

片目地蔵説話は民俗学者・柳田国男著作集や仏教説話集の「地蔵利益」にくわしい。

（三）夢にでた地蔵

昭和十九年（一九四四）ころ、米軍の空爆激化により、地蔵尊を一時、地下防空壕に避難させたところ、住職夫人は毎晩胸痛を覚えた。ある夜、夢枕に地蔵尊が現われたので、検分すると、左胸に白蟻が突き刺さっていた。驚いた夫人はこれを取り除くと、不思議と胸の痛みは消えたという。

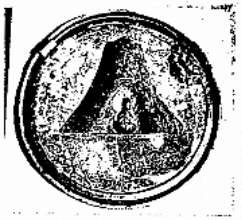
いまも安産・子育ての地蔵として信者が多い。

八　中町・浅間神社の懸仏

水上　清

・市有形文化財　工芸品　昭和四七年十月二五日指定
・所蔵者　会田勝亮氏　越谷市中町十の六
・形　状　丸い木形に富士山をかたどった銅板鍍金張りで、銅板打出鍍金の大日如来像が中央につく。上部に釣り手環一対。裏に墨書銘文。径二四・四㎝。

［中町・浅間神社］



［懸仏表面］

［懸仏裏面］

この懸仏は、中町の鎮守浅間神社にまつられていた。明治維新の廃仏毀釈のさい捨てられていたのが、たまたま拾われ、所蔵者の祖父会田太助氏が保管することになった。

富士信仰の懸仏は、神体の鏡や円形板（曼荼羅の月輪に由来するという）の中に、神の本地仏を浮き彫りにしたもので、御正体ともいう。平安中期の神仏習合の信仰から生まれた。鎌倉期から室町期にかけて、社殿にさかんに吊り懸けられた。その後、信仰のうつりかわりによって、懸仏はみられなくなる。裏面の銘文にある応永三十二年（一四二五）と文明八年（一四七六）の年代、二人の別当については、富士宮の浅間大社に記録はない。同じ筆跡なので、上野介満範が応永年間に奉納した懸仏がうしなわれ、文明年間に跡継ぎの良清があらためて奉納したの解釈がある（富士吉田市史）。

敬白
奉納　富士山内院御正躰
南無浅間大菩薩
上野介満範
別当
本云応永三十二年乙巳六月一日
于時文明八年丙申六月一日
別当中納言阿闍梨良清

［裏面の墨書銘文］

全国の懸仏の中で、山をあらわした中町の懸仏は他に例がない。早い時期の文化財であり、山岳信仰の遺品として貴重である。

越谷市内にある指定文化財の板碑

—市内板碑調査グループ（代表　宮川　進）—
池田　仁・加藤富士代・武井福三郎・中沢正夫・中村　貢・原田民自・広瀬隆之・宮川　進

市内御殿町にある建長板碑が建長元年に立てられてから今年は750年の節目の年。この建長板碑は越谷市の指定文化財となっています。そして市内には他に埼玉県指定となっているものが1基、市指定が6基あります。

◇建長板碑（越谷市指定）
御殿町にある。市内で最大、最古。阿弥陀の梵字一字が刻まれている。立てられた建長元年は、鎌倉市・建長寺の創建の年。あじさいで有名な明月院のもとを建てたり、謡曲「鉢ノ木」にもでてくる執権・北条時頼の時代。

◇天正3年・二十一佛・板碑（埼玉県指定）
増森1775にある。梵字により二十一佛を刻んだ板碑は山王二十一社の申待（さるまち＝申の日を待つ）供養という民間信仰とが混ざった信仰によってできたもの。全国でも39基と少ないが、そのうち9基が越谷市にある。釈迦、弥陀、薬師、地蔵……の二十一佛が梵字により刻まれている。これは天正3（1575）年8月銘のもの。この年は長篠の戦いのあった年。

◇文明3年・十三佛・板碑（越谷市指定）
増林2687の勝林寺にある。亡くなった人の三十三回忌までをつかさどる十三の佛をあらわした梵字の刻まれた板碑。
文明3（1471）年の銘がある。これは室町時代、将軍・足利義政と応仁の乱の時代。

◇文和3年・六字名号・板碑（越谷市指定）
相模町5丁目桜堂墓地にある。梵字ではなく漢字で「南無阿弥陀佛」と刻まれたもの。浄土宗・時宗系の念仏をと

なえる宗派の人々によって、られることが多いといわれている。

この板碑は武蔵七党のうちの野与党の一族・大相模次郎能高の子孫といわれる相模町・中村家に伝わるものである。文和3（1354）年正月吉日の銘がある。2年前の文和元年は足利尊氏が弟・直義を殺した年。

◇貞治6年・七字題目・板碑（越谷市指定）

大道39にある。「南無妙法蓮華経」という日蓮宗のお題目が刻まれている。越谷市では七字題目の板碑は、この1基だけ。元荒川から引上げられたものといわれている。

ほかに「南無多宝如来、南無釈迦牟尼佛」、「貞治6（1367）年6月20日」とある。翌年、元がほろび、明ができた。

◇天文22年・阿弥三尊図像・板碑（越谷市指定）

大成町2-122にある。図像板碑とは、佛の姿を絵に刻んだもの。市内には3基ある。

これには、天文22（1553）年庚申待供養の銘がある。2年後の弘治元年は川中島の戦いや厳島の戦い（毛利元就対陶晴賢）があった。

◇天正3年・二十一佛・板碑（越谷市指定）

東町5-1238の金剛寺にある。申待（さるまち＝申の日を待つ）供養とも刻まれている。天正3（1575）年乙亥12月吉日とある。

▽板　碑　と　は……

鎌倉時代に出現した供養塔の一種。みずからの死後の安楽を願うものが多いといわれる。武蔵系の板碑は秩父青石緑泥片岩を使っている。日本最古は、埼玉県江南町の嘉禄3（1227）年のもの。

参考としたもの

・越谷市の文化財第1集－指定文化財－　S46・3　越谷市教委文化財調査委員会編集発行
・越谷市の文化財第8集－指定文化財－　S56・3　越谷市教委発行
・越谷市の文化財　H2・3　越谷市教委発行

越谷にある「狛犬」全リスト

平成9年度　《狛犬調査グループ》

池田仁、岩瀬静江、加藤富士代、菅波昌夫、高山はつ、武井福三郎、竹谷フミ子、中道康、中村林也、野村勝八、林和江、宮川進、森田三郎、山口美津江、山崎政隆

社寺名	所在地	製作年代	調査者
久伊豆神社	川柳町２－１９６	平成　２年(1990)	菅波昌夫
女体神社	川柳町５－２８４	大正　９年(1920)	菅波昌夫
久伊豆神社	大成町１－２１５９	明治１２年(1879)	池田 仁
日枝神社	相模町６－４８１	昭和５６年(1981)	池田 仁
稲荷神社	恩間新田５５９	〈　不　明　〉	林　和江
大道神社	大道９５	天保１３年(1842)	森田三郎
香取神社	大松１１５	昭和４９年(1974)	加藤富士代
香取神社	大吉１０５５	〈　不　明　〉	野村勝八
川崎神社	北川崎１０７	安政　２年(1855)	加藤富士代
久伊豆神社	蒲生１－７１２	昭和５３年(1978)	菅波昌夫
香取神社	増林４２３２	慶応　元年(1865)	池田 仁
香取神社	大沢３－１３－３８	文政　２年(1819)	竹谷フミ子
		宝暦　６年(1756)	竹谷フミ子
		天保　６年(1835)	竹谷フミ子
		安永　９年(1780)	竹谷フミ子
市神神明社	越ケ谷本町８－１０	〈　不　明　〉	宮川 進
久伊豆神社	越ケ谷１７００	享保　７年(1722)	宮川 進
		文政１０年(1827)	宮川 進
中島諏訪神社	中島１－５６？	平成　５年?(1993)	細 仁・中村林也
大聖寺	相模町６－４４２	〈　不　明　〉	加藤富士代
浅間神社	越ケ谷１５７９	平成　９年(1997)	竹谷フミ子

★上記の資料は平成９年１１月２０日現在の調査報告です。

★越谷市内で、この他に狛犬がおりましたら、是非お教えくださるよう、お願い致します。

歴史好き、好奇心いっぱいのあなた！
ぜひ、お仲間に！

あなたの余暇を、ちょっと高尚で、楽しくて、そして健康にもよい
『趣味タイム』に使ってみませんか。

越谷市郷土研究会とは

◎史跡めぐり・研究発表会などのイベントを年間を通して催しております。
その他に、古文書クラブの学習会も月に２回程実施しております。

◎当会は、昭和４０年（１９６５）３月に発足しました。
以後地道に活動し、現在は会員が２００名を超える規模に発展しました。研究発表会は１２０回となり、史跡めぐりは２５８回を数えるまでになりました。

◎昨年は８月２４日（日）には
『歴史講演会』（共催は越谷市教育委員会、後援は越谷市文化連盟）が、
今年は６月１４日（日）と９月１３日（日）には
『越谷・建長板碑建立７５０年　記念歴史講演会』（後援は越谷市教育委員会・越谷市文化連盟）が行われました。
なお、９月１３日の講演会は「鎌倉学フォーラム」の協賛が得られました。

◎今年の３月１１日（水）には
水戸方面のバス史跡めぐりを実施し、大好評を得ました。

郷土研究会にお入りになりますと

◎すべてのイベントの案内が受け取れます。
せっかくよい行事があったのに知らなかった、ということがありません。

◎会員だけのための特別行事に参加できます。
郷土研究会のイベントには、「広報こしがや」に掲載していない行事にも、会員に限り参加できます。

郷土研究会にお入りになるには

◎会費は、年間２，０００円（会報・諸案内状・諸会議費等）です。
どなたでも気楽に入会できます。市外の方でも歓迎致します。

◎申し込みは、はがきに「平成何年度より入会」とお書きのうえ、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、下記までお寄せ下さい。
または、当会の各種行事の際に、郷土研究会役員までお申し込み下さい。

〒343-0806 越谷市　宮本町　３－１１７－８　谷岡隆夫方
越谷市郷土研究会

◎電話でのお問い合わせは、☎0489-62-7527　谷岡隆夫（当会会長）まで。